

宿題 Homework : 提出期限 2000 年 7 月 3 日授業後 (4 :10PM)厳守

新古典派経済成長モデルによれば、たとえもともとの経済賦与状態が違っていても、長期的には各国間の経済成長率が一定の水準に収束(converge)していくはずであるという仮説が成り立ち、近年、それを実証的に証明しようとする試みがなされてきた (例えば Barro and Sala-i-Martin (1995) 参照)。

ところで、イギリスの遺伝統計学者 Francis Galton は身長の高い親からは身長の相対的に低い子供が生まれ、またその逆も真である、ことを示そうとして、身長はある平均値に対して回帰していくという議論を展開した。この Galton の仮説は今では誤謬であることが知られているが、同様の論理付けが収束仮説にたいしても行われているのではないかという指摘がなされている (Bliss(1999)、Friedman (1992)、Quah(1993)等を参照)。それらの文献を参照しながら次の問いに答えなさい。

- (1) 収束仮説の実証の仕方の何が間違っているのかを指摘し、それを論理的、統計的に証明をせよ。
- (2) また、収束仮説が成り立たないとすれば、理論的にはどのようなモデルが考えられるか論じよ。
- (3) パネル・データを用いると収束仮説を統計的に正しく検定することができると考えられるが、どのような推計方法、検定方法を用いればよいだろうか。その理由と実証研究上どのような手続きをとるべきかを具体的な研究計画として論じなさい。

参考文献

- Barro, R.J. and Sala-i-Martin (1995) *Economic Growth*, McGraw Hill (MIT Press).
- Bliss, C.(1999) “Galton’s Fallacy and Economic Convergence”, *Oxford Economic Papers*, 51, pp.4-14.
- Friedman, M. (1992) “Do Old Fallacies Ever Die?” *Journal of Economic Literature*, 30, pp.2129-2132.
- Quah, D. (1993) “Galton’s Fallacy and Tests of The Convergence Hypothesis”, *Scandinavian Journal of Economics*, 95(4), pp.427-443.